

コロナ対策の1級建築士「自宅学習でも合格可能」

1. 自宅学習でも1級建築士の学科試験は確実に合格できる

1級建築士の学科試験は、過去問20年を学習すれば確実に100点を超えて合格できる(極論、過去問20年を丸暗記すれば誰でも合格可能)。過去問20年を分析すると、全ての学科で繰り返し類似問題が多く出題されている。毎年、新規問題も出題されているが、この対策は、4選択肢であることから消去法が有効である。

過去問は、一般書籍でも「項目別解説書」や「過去問7年間の解答書」が販売されている。しかし、これらの一般書籍は、項目別解説書では掲載内容が少なすぎて、過去問7年間では類似傾向等まで把握することができないことから、合格率10~20%の壁を突破できない。過去問学習だけで学科を突破するには、過去問20年の学習が必須である。また、R1学科IV問題6の判別式のように、10年以前の問題が、忘れたころに出題される傾向も見られる。

他方、過去問20年の学習には、膨大な時間を要する。特に一般書籍のような詳細な解説を一つ一つ学習するのでは、1年や2年の学習では終わらない。そこで研究会では、過去問20年を項目別に分類し、その問題をA3伴1枚に10問題を並べる一覧表を作成した。類似問題が毎年1問出題されているなら、A3伴2枚に過去問20年が全て見れる。つまり、机の上A3伴2枚を並べて置くと、その項目の過去問20年全てを見ながら学習できて時間短縮が可能となる。

上記は一例であるが、学科試験は、HPを利用した自宅学習で十分合格できる(各資料は「無料講座HOME」参照)。

2. 1級建築士製図試験に自宅学習(HP活用)だけで合格(会員)している

研究会の会員の多くは、S社・N社等の資格学校と併用活用しているが、一部の方はHPだけの利用者(会員)がおり、毎年HPだけを利用した会員の中から数名の合格者がでている。HPの具体的な特徴は、以下の3点である。

- ① 予測課題を3案に絞り、その3案で本試験課題の8割以上の中している(H29、H30、H31、R1は8割以上の中)
- ② 8月中旬に予測課題を公表した後は、個別質疑をメールで受け付けている(個別質疑は会員講座内で公開)
- ③ 研究会の予測課題3案に対し、会員が作図した内容は、添削をして採点とランク評価後にメール返却している

完全な独学、例えばN社の製図試験一般書籍(8月中旬販売)を購入し、自宅学習のみで合格するのは、さすがに難しいと言える。この一般書籍は、課題発表直後に分析作成した予測課題であることから、概ねの傾向がつかめるという感じである。また、予測課題への様々な質問ができないことや、自分で作図した内容について添削等による欠点把握ができないこと等もある。そこで、多くの受験者は、資格学校へ通学しているが、研究会は、上記内容にて資格学校でできることをフォローした講座としている。

上記は一例であるが、製図試験は、HPを利用した自宅学習で十分合格できる(各資料は「無料講座HOME」参照)。

3. 資格学校(S社・N社)の利点と課題について

資格学校(S社・N社)の利点は、その専門学校であることから資料が充実(予測課題含む)していること、対面講義であり疑問点をその場で確認できること、専門スタッフが充実していること、全国に亘り教室があること、休日は1日拘束されるので強制的な終日学習ができること等である。

他方、資格学校の課題は、予測課題が多すぎる(学習が追い付かない、結局何がでると疑問を持つ等)、通学するための時間を要すること、全国共通での学習なので通学者内で差が付きにくいこと、多数での共通学習であり自分ペースの学習ができないこと(落ちこぼれると着いていけない等)、受講費があまりに高額であること等である。

最終合格者(製図試験合格者)のS社・N社の占める割合は、8割を超えている。他の資格学校を含めると9割を超え、事実上の独学合格者は、数%という狭き門である。資格学校の歴史を振り返ると、昔はN社の一社独占市場であった(現在は3割弱を占める)。名古屋の地方資格学校であったS社は、現在、市場の約7割を占める全国最強の資格学校となった。合格者の占める割合もそれに比例しているが、合格率となるとS社もN社も同程度と推定している。S社の公表している合格者の数値は、全て占有率であるので、誤解を生じないようにした方が良い(受講者も多いので合格占有率も高い、合格率ではない)。結局、S社もN社も通学する方の約半分が合格する状況にあるので、事実上、1級建築士試験は、資格学校内の1/2の競争と言える(全国共通学習なので隣人に勝つため当HPをご利用下さい)。

なお、S社へ通学するのであれば、以下の2点を理解したうえで、ご判断された方がよいと思います。

- ① 学科と製図は、通学後に様々な補修等で結果10~20万円の追加費用がかかる
- ② 製図は、9時ごろから22~23時ごろまでの長時間講習となる

一時、S社の受講生が多くなるにつれてN社は費用を下げた経緯がある。その結果、N社の受講生が盛り返したが、その後、S社が入学時の費用を下げて、入学後に様々な追加講習として累計10~20万円の費用を取る形式をするようになった。昨年、S社受講した当会員の方は、「お金が無いので追加講習を受けれない」と伝えたが、「合格する気がないのか」等の強い勧誘により、結果追加講習を受けた。他方、製図は、N社との差別化の意味も含め、S社は深夜22~23時ごろまでの講習を実施している。これも、人間の集中力の限界をはるかに超えた学習時間であるので、少々疑問に思える(N社のように18時に終了しても合格率はほぼ同等)。これら2点は入学時には把握できないので、それを知ったうえで、または直接S社に確認したうえで、納得して入学された方がよい。